



奈良町にぎわい通信

Vol.50

二〇一九・芒種〜夏至

発行
奈良町
にぎわいの家

「にぎわいの花咲かそう〜いけ花の日によせて〜」 奈良県華道会





謎の多い中世、だからこそその魅力！
貴重な資料を見ながら、皆さん熱心に。



立石堅志さん
(市教育委員会 教育部次長)
による、中世、奈良町のお話！

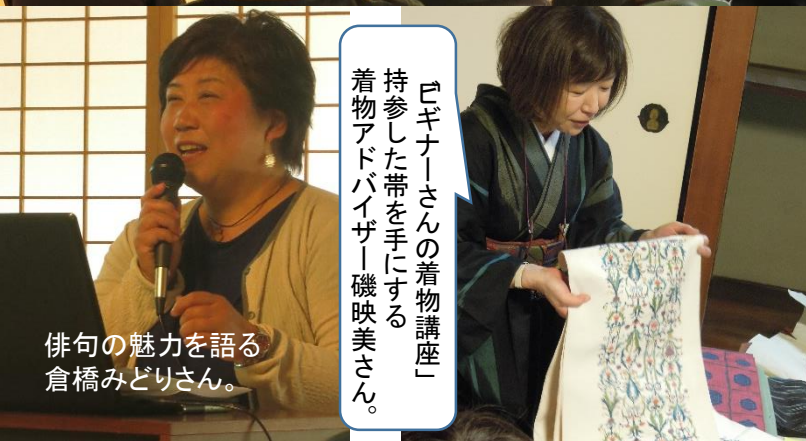


町家講座～奈良町の
都市史シリーズ
好評の第2回目！



「二十四節気＆俳句講座」季語のお話や
俳句の創作をクイズ形式で楽しく！

皆さん持参の着物や帯。先生のセンスある
アドバイスに納得！もっと着物をきよう！



「ビギナーさんの着物講座」
持参した帯を手にする
着物アドバイザー磯映美さん。

俳句の魅力を語る
倉橋みどりさん。



奈良町にぎわいの家 5月のイベントから



「蓄音機コンサート」は、当館に寄贈された
昭和戦前の貴重なSP盤を、当時の世相
の解説も交えながら鑑賞。



親愛幼稚園母コーラスによる「気軽にコンサート」
親子で楽しめる歌がたくさん！



「にぎわい名物？」
軒菰蒲



令和最初の黄金週間、
にぎわいました！

南京玉すだれで
はい、チーズ！！



かまどで豆ごはん！



外スペースでは
けん玉検定も。
子どもの時の腕は
今も健在！

奈良町 施設巡りトーク～Vol.11「奈良市杉岡華邨書道美術館」

お話
学芸員
松村 清孝さん



杉岡華邨先生



●施設紹介

かな書の第一人者で文化勲章受章者の杉岡華邨氏より作品の寄贈を受けたのを機に、奈良市が平成12年に開館した、書道専門の美術館です。寄贈作品(約440点)の保存、公開と、企画展や講座等を通して、書の芸術に親しみ、学べる施設です。古来より、墨や筆などの伝統産業に支えられ、「書」が生活文化として受け継がれ、発展してきた奈良。身近に優れた書作品を鑑賞できる施設となっています。

●杉岡華邨先生のこと(大正2年-平成24年 1913-2012)

杉岡先生は生まれは吉野郡下北山村ですが、その後奈良市に住まいし、奈良師範学校(現奈良教育大学)卒業後、郷里の尋常小学校や郡山高等女学校の教員を経て、大阪教育大学の教授として、書の指導、研究、創作と精力的に活動されました。「かな書」は平安中期に完成され、宮中の文化や和歌のやりとりには欠かせないものですが、明治維新の混乱期を乗り越え、戦後、興隆した経緯があります。その現代のかな書壇の体现者が、杉岡先生といっても過言ではありません。先生は「変化と調和」「異なる要素を両立させて調和」することを大切に考えておられました。古筆に学びながら、造形としての魅力を意識しての創作は絵画的ともいえます。先生の作品を見たことがない方も、その空間美の魅力を是非、味わってほしいです。また、先生は禅の世界にも学ばれ、内面を鍛え、書に向きあう厳しさを自己に賦しておられましたが、そのお人柄は、やさしくユーモアのある大きな方でした。

●今後の予定

新しい時代「令和」となり、出典となった「万葉集」が注目されています。7月20日から、「華邨が書く万葉の世界」(仮題)を開催します。1300年前の歌のことが、華邨作品でどのように表現されているのか、ご堪能いただけたらと思います。

最近、海外のお客様の来館が目立ちますが、日本語や書道を知らない外国の方が興味をもって鑑賞している姿は、「書」が造形として優れているということ、改めて実感します。筆を持つということは、現代の暮らしや仕事の中では、機会がありませんが、筆や紙の感触を味わう楽しみは、心を豊かにしてくれます。「書」に親しむひととき…。奈良町散策の折に是非、お立ち寄りください。

(聞き手・文責 おの・こまち)

●開館時間

9:00～17:00(入館は16:30)

●休館日...月曜日

年末年始等

●連絡先 〒630-8337

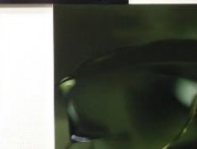
奈良市脇戸町3番地

TEL 0742-24-4111

蔵展示「緑なす奈良」～河村牧子 写真展から

入江泰吉記念美術館主催・なら PHOTO CONTEST (カテゴリー2) 一位の河村牧子さんによる写真展を緑が美しい立夏から小満にかけて開催しました。河村さんは、奈良生まれ、奈良育ち。今回の撮影も奈良公園、飛火野、荒池園地など、ご自身が幼い頃より親しんだ身近な場所の風景です。「しか賞」を受賞された河村さんの鹿の写真は、観光地の「鹿」の

でなく、山に生き、野に生きる存在であることを再認識させられました。「奈良公園で鹿の写真をとってきたけど、公園に行く前に、この展示を見ておいたら良かった。」との声や若いお二人が、「わあ、かわいい。どうしたら、こんな風にとれるんだろうね。」など話が弾んでいました。次回は、また違った奈良の風景を見せてくださるはず。お楽しみに。



奈良町にぎわいの家 二十四節気葉書 ～夏至～

ほととぎす一声鳴けり明けやすき
夏至の大きき
切り裂き鳴けり



ほととぎすが一声鳴きました。
明るい夏至の早朝の空気を
切り裂くように
けたたましく鳴きました。

オリジナル節気短歌
喜多隆子(歌人)
節気マーク
はがきデザイン
金田あおい(藍寧舎)

事務局だより

2019
夏至

夏のたたずまい

事務局長 藤野正文

季節は夏至から小暑、大暑と、気温がぐんぐん上がるとき。昨年の夏の異常な猛暑を思い出し、今年は少しでも暑さが和らぐことを祈らずにはおられません。

日本の家屋は夏を旨として夏を快適に過ごす様々な工夫・知恵をあみ出してきました。家屋はひさしを長くだして日射をさえぎり、間仕切り壁を少なくして風通しが良く、床も高くして風がとおります。ふすまは夏向けに衣替え。通り庭の吹き抜けで熱気を外に逃がしました。中庭からも風が通り抜けます。蒸し暑い湿気は土壁が吸収。畳も素足で歩くと冷つとして気持ちよく、よしずやすだれ、風鈴などの小道具もあります。さらに打ち水をしたり、金魚や鈴虫、朝顔を育てていました。私の子供のころは、家の風通しのいい畳の上で蚊取り線香を焚いて昼寝もしました。

考えれば、私たちは五感を総動員して様々な工夫・知恵で、暑い夏をなんとか過ごしてきましたね。

地球規模での温暖化が進む中で日本の家屋のつくりも変わらざるにはいられないかもしれません、このような知恵をいかしたり、さらに工夫をしてこの夏を乗り切りたいものです。

ノートルダム大聖堂に想う～ここに刻まれる建物

4月16日の朝、衝撃的な映像が流れました。パリの大聖堂の火災です。市民の悲壮な顔と、賛美歌の行列が映し出されていました。ここは観光客が必ず訪れる場所の一つ。私も学生時代バックパックでヨーロッパを巡った最終地がここでした。その後、いつしかパリの日々を忘れていましたが、あのニュースで一気に30年前の冬が思い出されました。

こんな風に人々の記憶を彩る建物が焼ける。それも屋根裏は木造だという。規模も何もかも違うけれど、「奈良町にぎわいの家」という文化財を管理している者として、背筋がゾーッとしました。もちろん、日本を旅行中のフランスの方々もショックでしょう。

そこで、少しでもつらさをシェアし、再建を信じる私たちの気持ちを届けられたら、と翌日からフランス語のメッセージボードを用意しました。多くのメルシーのほか、涙を浮かべながら長文を書く若い女性、ショックでペンを持てないという親に代わって書き込む子供たち・みなさんの気持ちを、この「にぎわいの家」で受け止められた、とは思わないものの、一つの建物が世界の人々の心を結びつけていることを実感しました。あらためて国際観光都市に建つ当館の意義を大切にしたいと思えます。＜大聖堂の前に立つのは30年前の私、9頭身！＞

堀内紀子

皆さんからのメッセージとエール。いろんな国の方から。



奈良町にぎわい通信vol.50

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>

書：逢香



奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



芒種



夏至

6/6~21

6/22~7/6

夏至の日の国原早苗(くにはらさなへ)

りんりんと立ちそむるなり水のひかりに 前登志夫